



令和 8 年 6 月 2 6 日

日立市都市建設部都市政策課

ひたちBRTのMM総研大賞「地域モビリティ分野最優秀賞」受賞について

標記について、下記のとおり受賞することとなりましたのでお知らせいたします。
つきましては、取材及び記事掲載について御配慮くださるようお願いいたします。

記

1 MM総研大賞について

株式会社MM総研が、優れたICT技術で積極的に新商品、新市場の開拓に取り組む企業を表彰することで、ICT分野の市場、産業の発展を促すきっかけとなることを目的に、2004年（平成26年）に創設されたものです。

2 受賞概要

(1) 受賞名

MM総研大賞 2026 「スマートソリューション部門地域モビリティ分野 最優秀賞」

(2) 受賞対象

「ひたちBRT自動運転バスを中心とした取り組み」

(3) 受賞団体

株式会社みちのりホールディングス、株式会社茨城交通、日立市

(4) 受賞理由

2025年2月から中型バス車両での自動運転「レベル4」の営業運行を開始。国内最長距離で、鉄道の廃線跡を専用道として活用するなど、地域の移動課題解決に向けた積極的な取り組みが評価されました。

(5) 詳細 別添のとおり

3 参考（過去受賞作一例）

- 日立製作所のIoTプラットフォーム「^{ルマダー}Lumada」が大賞を受賞（2017年）
- 群馬県や前橋市などの取組で公共交通に関するスマートフォン向けwebサービス「^{グンマース}GunMaaS」がスマートソリューション部門MaaS分野において最優秀賞を受賞（2024年）

以上

【問合せ】日立市都市建設部都市政策課（担当 小山、吉田）

TEL 0294-22-3111（内線528、223）

【解禁日時】

通信社、テレビ、ラジオ、Web サイト：6月25日（木）10時

新聞・雑誌：6月25日（木）朝刊

2026年6月25日

「MM総研大賞 2026」審査結果を発表 大賞は Anthropic の「Claude Cowork／Claude Code」

- 大賞は AI エージェントの利活用を世界的に加速させた「Claude Cowork／Claude Code」
- スマートソリューション部門賞は NTT ドコモビジネス、NEC、NTT データグループ、ソフトバンク、KDDI／KDDI スマートドローン、愛知国際アリーナ／NTT ドコモ、東芝テック みちのりホールディングス／茨城交通／日立市、大塚製薬、Even Realities など 11 件
- 審査委員特別賞は住友電気工業の「海底マルチコア光ファイバ」
- 話題賞は FCNT の「らくらく シリーズ・arrows シリーズ」

ICT 市場調査コンサルティングのMM総研（略称 MMRI、東京都港区、横田英明所長）は、「MM総研大賞 2026」（審査委員長：村井純慶應義塾大学特別特区特任教授）の最終審査を終え、「大賞」「スマートソリューション部門最優秀賞」「審査委員特別賞」「話題賞」を決定した。MM総研大賞は ICT 市場の発展を促すことを目的に 2004 年に創設した表彰制度。今回で 23 回目となる。

最高峰にあたる「MM総研大賞」は受賞対象の中から ICT 市場の発展に最も寄与すると評価された技術やサービスを選んだ。次世代のスマート社会を支える技術やサービスなどを表彰するスマートソリューション部門の「最優秀賞」には 10 分野の技術やサービスなどを選定した。日本の ICT 産業発展への貢献が高く評価された技術・サービスを「審査委員特別賞」、社会的に大きな話題となった技術やサービスなどを「話題賞」としてそれぞれ選出した。

1. 「MM総研大賞」

Anthropic 「Claude Cowork／Claude Code」

従来の指示を待つだけのチャット型 AI から、自律的にタスクを実行する AI エージェントの利用が世界的に拡大している。この流れを加速させているのが米 Anthropic だ。同社の大規模言語モデル「Claude」のうち、ナレッジワーク向けのエージェント AI システム「Claude Cowork」と AI を活用したコーディングアシスタント「Claude Code」は、理解能力と処理性能に優れ、自律的なタスク実行により知識労働分野での生成 AI 活用を大きく前進させた。安全性を重視した設計思想で導入への敷居を下げ、生成 AI の実務利用を広げた点も高く評価された。

これによりスマートソリューション部門の AI エージェント分野での「最優秀賞」に加え、すべての技術・サービスの中で最高評価に値すると判断し、MM総研大賞 2026 の「大賞」に選出した。

2. スマートソリューション部門賞

スマートソリューション部門では 10 分野で下記 11 の技術・サービスなどを最優秀賞に選出した。

■ AI エージェント分野 最優秀賞

Anthropic 「Claude Cowork/Claude Code」

※「大賞」と AI エージェント分野の最優秀賞を同時受賞。概要は「大賞」を参照

■ 次世代ネットワーク分野 最優秀賞

NTT ドコモビジネス セキュリティ統合型 NaaS 「docomo business RINK®」

AI 活用の進展により、ネットワークのインテリジェント化が進む中、ネットワーク機能をクラウド経由でサービスとして提供する NaaS (Network as a Service) への関心が高まっている。NTT ドコモビジネスのセキュリティ統合型 NaaS 「docomo business RINK®」は、インターネットや VPN (仮想専用線)、モバイルアクセスやリモートアクセスなど利用拠点に応じたネットワークとクラウド型のセキュリティ機能を一体で提供するサービス。企業の DX (デジタルトランスフォーメーション) 推進や AI 活用に適した次世代ネットワーク基盤として高く評価し、次世代ネットワーク分野の最優秀賞に選定した。

■ セキュリティ分野 最優秀賞

NEC 次世代サイバーセキュリティサービス「CyIOC (サイオック)」

高度化・巧妙化するサイバー攻撃は、企業の事業継続を揺るがす深刻な問題となっており、多くの企業がセキュリティ対策を喫緊の課題と位置付けている。このセキュリティ分野で最優秀賞を獲得したのが、NEC の次世代サイバーセキュリティサービス「CyIOC (サイオック)」である。「.JP を守る」という理念のもとに立ち上げられたサイバーセキュリティサービスの新ブランドで、NEC が誇る高度なサイバーセキュリティ技術と最新 AI 技術を融合。品質と信頼性を高く評価した。

■ データセンター分野 最優秀賞

クラウド移行を含めた旺盛な DX 投資や世界的な生成 AI の利用拡大により、データセンターの需要が爆発的に高まっている。AI 需要に対応したデータセンターの拡張や液冷対応の高度化、GPU (画像処理装置) などの計算リソースの整備など投資は今後も拡大することが予想される。このデータセンター分野では NTT データグループとソフトバンクが最優秀賞を受賞した。

NTT データグループ 「グローバルデータセンター」

NTT データグループが展開する「グローバルデータセンター」は、データセンターの世界市場でシェア第 3 位、国内市場では第 1 位を誇る。光技術や GPU など AI 時代を支える先端技術を結集し、世界規模で IT (情報技術) インフラを提供。AI・クラウド需要を捉える事業化力、技術力を高く評価し、データセンター分野で最優秀賞に選定した。

ソフトバンク AI-RAN ソリューション「AITRAS」

ソフトバンクの AI-RAN ソリューション「AITRAS (アイトラス)」は、基地局と AI 処理を同一基盤で運用し、通信品質向上と AI 活用を推進する。エッジ分散配置によりデータセンター分散化を促進し、リア

ルタイム性を活かして多様な産業用途を支える新たな基盤として高く評価し、データセンター分野で最優秀賞に輝いた。

■次世代モビリティ分野 最優秀賞

KDDI/KDDI スマートドローン 「ドローンポートの社会基盤化」

ドローンの社会実装に向けたインフラ構築が全国で進められている。日常的な配送サービスだけでなく、インフラ点検や災害時の迅速な状況把握へのドローン活用を加速させる取り組みとして社会的な期待も高まっている。このドローン分野で最優秀賞を受賞したのが KDDI/KDDI スマートドローンによる「ドローンポートの社会基盤化」の取り組みだ。モバイル通信と AI ドローンを活用したドローンサービスを提供するために、各地に配備を進め、全国どこでも 10 分でかけつけるサービスを目指すなど、新たな社会基盤の実現に向けた取り組みを高く評価した。

■地域モビリティ分野 最優秀賞

みちのりホールディングス/茨城交通/日立市 「ひたち BRT」の自動運転バスを中心とした取り組み

地域の主要交通事業者を中心とした事業者間連携による地域モビリティの利便性向上や交通課題解決の動きが広がりつつある。地域モビリティ分野では、みちのりホールディングス（東京都千代田区）、茨城交通（水戸市）、茨城県日立市を中心に事業展開している「ひたち BRT」の自動運転バスを中心とした取り組みを最優秀賞に選定した。2025 年 2 月から中型バス車両での自動運転「レベル 4」の営業運行を開始。国内最長距離で、鉄道の廃線跡を専用道として活用するなど、地域の移動課題解決に向けた積極的な取り組みを評価した。

■スマートシティ分野 最優秀賞

愛知国際アリーナ/NTT ドコモ 「IG アリーナ」

最新の ICT を駆使して観客がスポーツやエンターテインメントを新たな視点や感覚で体験できるスタジアムやアリーナの建設が進んでいる。観戦体験の向上に加え、スタジアムやアリーナを中心としたまちづくりや地域活性化にもつながる取り組みとして期待が高まっている。このスマートシティ分野で最優秀賞に輝いたのが愛知国際アリーナ（名古屋市）と NTT ドコモの「IG アリーナ」だ。次世代通信基盤「IOWN」を実装した世界初のアリーナであり、国内最大規模の通信環境により、リアルとデジタルを融合した新たな体験を提供。全国のアリーナへの横展開や地域経済活性拠点としての将来性を高く評価した。

■DX 支援ソリューション分野 最優秀賞

東芝テック 「AI 技術を活用した小売店舗向けスマートストアソリューション」

深刻な人手不足が続くなかで業務効率化が喫緊の課題となっている業界のひとつが小売業界だ。近年では DX の推進を通じ、省人化をはじめとした業務効率化に加え、新たな顧客体験の創出にもつなげようとする動きが広がっている。こうした取り組みをサポートする DX 支援ソリューション分野では、東芝テックの「AI 技術を活用した小売店舗向けスマートストアソリューション」が最優秀賞に輝いた。画像認識

AIなどの先端技術を活用し、防犯強化と省人化を実現するスマートストアソリューションを本格展開。顧客体験向上に加え、人手不足や店舗ロスなどの課題解決に貢献している点を高く評価した。

■医療 ICT 分野 最優秀賞

大塚製薬 認知症の診療支援に用いる神経心理検査用プログラム「ミレボ®」

認知症の早期発見・早期診断が望まれる中、ICTを用いた検査法の開発、実用化が進んでいる。医療 ICT 分野で最優秀賞を受賞した大塚製薬の認知症の診療を支援する神経心理検査用プログラム「ミレボ®」は、iPadなどのタブレットを用いて約3分で簡便に検査を実施できる。2025年1月1日付で認知症領域のSaMD (Software as a Medical Device: プログラム医療機器)として初めて保険適用を取得。検査者の知識や経験に依存せず客観的に評価することが可能で、認知症診療を支援し、超高齢社会における課題解決に大きく寄与する点を高く評価した。

■スマートデバイス分野 最優秀賞

Even Realities 「Even G2」

次世代のスマートデバイスとして期待が高まるスマートグラスの開発競争が本格化している。主要メーカーだけでなく、ベンチャーやスタートアップ企業などの新規参入も増加している。AI搭載による高機能化に加え、普通の眼鏡と変わらない見た目や装着感など日常生活で使うための改良も進んでいる。このスマートデバイス分野で最優秀賞に輝いたのが香港を拠点とするEven Realitiesのスマートグラス「Even G2」である。Even Realitiesは、日常に自然に溶け込むテクノロジーを追求しており、視界を妨げないスマートグラス体験を通じて、人と情報の関わり方を再定義している点を高く評価した。

3. 審査委員特別賞

住友電気工業 「海底マルチコア光ファイバ」

外部有識者からなる審査委員会が推挙し高く評価した技術・サービスを表彰する審査委員特別賞には、住友電気工業の「海底マルチコア光ファイバ」を選んだ。生成AIや5Gの普及による世界的なデータ通信需要の拡大に対応するため、大陸間や世界各国を結ぶ海底ケーブルにはさらなる容量拡大が求められている。同社では、1本の光ファイバーに複数の光の通り道(コア)を内蔵する光ファイバーを開発。AI時代の膨大なデータ流通を担う海底ケーブルの太さを変えずに、1本あたりの伝送容量を飛躍的に拡大させた。長年の極低損失技術をもとに世界初の量産化に成功した点などを高く評価した。

4. 話題賞

FCNT 「らくらく シリーズ・arrows シリーズ」

社会的に大きな話題となった技術やサービスなどを表彰する「話題賞」は、FCNTのスマートフォン「らくらく シリーズ・arrows シリーズ」が受賞した。国内では2026年3月末に3Gサービスが終了し、対応端末への移行需要が高まる中、国産スマートフォンを中心とした同社製品が多くの支持を集めた。

「らくらく シリーズ」は、誤操作防止機能や詐欺対策機能など、使いやすさや安心に配慮した設計をはじめ、デジタルデバイドの解消に貢献している。「arrows シリーズ」は、堅牢性や耐久性に優れ幅広い

ユーザーニーズに応える機能を持ち、両シリーズにおいて、センサーから取得したバイタルデータを活用した健康管理支援など、デジタルヘルスケアの日常化に大きく貢献する点も評価した。

MM総研大賞 2026 は「MM総研大賞」兼「スマートソリューション部門最優秀賞」の同時受賞の 1 件、スマートソリューション部門の「最優秀賞」10 件、「審査委員特別賞」1 件、「話題賞」1 件の合計 13 件となった。

以上

[参考] これまでの「MM総研大賞」受賞企業は以下の通り。

- MM総研大賞 2004 松下電器産業（現パナソニック）「DIGA」（DVD レコーダー）
- MM総研大賞 2005 シャープ「AQUOS」（液晶テレビ）
- MM総研大賞 2006 アップルコンピュータ「iPod + iTunes Music Store」
- MM総研大賞 2007 JR 東日本「Suica」「モバイル Suica」と PASMO 協議会「PASMO」の共同受賞
- MM総研大賞 2008 ソニー「XEL-1」（有機 EL テレビ）
- MM総研大賞 2009 トヨタ自動車「Prius」
- MM総研大賞 2010 日本経済新聞社「日本経済新聞電子版」
- MM総研大賞 2011 パナソニック「エコナビ」
- MM総研大賞 2012 サムスン電子ジャパン「GALAXY」
- MM総研大賞 2013 JR 東日本「Suica」
- MM総研大賞 2014 エネット「EnneSmart」
- MM総研大賞 2015 ソフトバンクロボティクス「Pepper」
- MM総研大賞 2016 NTT ドコモ「+ d」
- MM総研大賞 2017 日立製作所「Lumada」（IoT プラットフォーム）
- MM総研大賞 2018 NEC「SX-Aurora TSUBASA」（次世代イノベーションプラットフォーム）
- MM総研大賞 2019 富士通「デジタルアニーラ」（次世代アーキテクチャー）
- MM総研大賞 2020 富士通「富岳」（スーパーコンピューター）
- MM総研大賞 2021 NTT ドコモ「ahamo」
- MM総研大賞 2022 NEC／高松市／富山市「FIWARE を活用したスマートシティ」
- MM 総研大賞 2023 メディカロイド 手術支援ロボット「hinotori サージカルロボットシステム」
- MM 総研大賞 2024 マイクロソフト 「Microsoft Copilot」
- MM 総研大賞 2025 SkyDrive 「SKYDRIVE（SkyDrive 式 SD-05 型）」

「MM総研大賞 2026」概要

【開催主旨】

「MM総研大賞」は ICT 分野の市場の発展を促すために MM総研が 2004 年に創設した表彰制度です。2026 年度の今回が 23 回目になります。ICT 分野における優れた技術やサービスで新商品や新市場の開拓に取り組んでいる企業を表彰いたします。

【表彰対象】

1. MM総研大賞
2. スマートソリューション部門 (10 分野)
 - ① AI エージェント分野
 - ② 次世代ネットワーク分野
 - ③ セキュリティ分野
 - ④ データセンター分野
 - ⑤ 次世代モビリティ分野
 - ⑥ 地域モビリティ分野
 - ⑦ スマートシティ分野
 - ⑧ DX 支援ソリューション分野
 - ⑨ 医療 ICT 分野
 - ⑩ スマートデバイス分野
3. 審査委員特別賞
4. 話題賞

【評価基準 / 評価方法】

◆ MM総研大賞

「スマートソリューション部門賞」、「審査委員特別賞」、「話題賞」に選出された技術・サービスの中から、審査委員会が「スマート社会への貢献度」、「今後の ICT 産業への影響度」などを選考基準に総合的に決定する。

◆ スマートソリューション部門 最優秀賞

スマート社会の核となるスマートソリューションが対象。技術やサービス全般に対する「認知度」「信頼性」「使いやすさ」「先進性／革新性」「独創性」「価格妥当性」「市場性」に加え、将来性を計る評価軸として「基盤製品・サービスとしての可能性」（技術やサービスの上に大きな付加価値市場ができていく基盤サービス・製品となる可能性）などの項目を評価基準とする。消費者およびビジネスユーザーを対象としたインターネットアンケート(1,500 件)、また候補企業に対する MM総研研究員による取材活動等による評価を基準として、最終的には外部有識者からなる審査委員会の協議により受賞企業を決定する。

◆ 審査委員特別賞

「審査委員特別賞」の候補となる技術・サービスは外部有識者の審査委員が推挙し、審査委員会の協議により決定する。日本の ICT 産業発展への貢献が高く評価された技術・サービスを対象とする。

◆ 話題賞

「話題賞」は ICT 産業に大きなインパクトを与え話題を集めた技術・サービスを対象とする。2025 年度における話題性に加え、今後の ICT 産業全体への影響の大きさも評価基準とする。消費者およびビジネスユーザーを対象としたインターネットアンケート(1,500 件)をもとに選出した技術・サービスの中から、外部有識者からなる審査委員会が「話題性」や「今後の ICT 産業への影響度」などを選考基準に「話題賞」を決定する。

【審査委員】

審査委員長	村井 純	慶應義塾大学特別特区特任教授
審査委員	天野 肇	一般社団法人 モビリティ・イノベーション・アライアンス 理事長
審査委員	篠崎彰彦	中央大学 国際情報学部教授
審査委員	石戸奈々子	NPO 法人 CANVAS 理事長
審査委員	西田宗千佳	フリージャーナリスト
審査委員	横田英明	MM総研 代表取締役所長 兼 CEO

【MM総研 会社概要】

【社 名】 株式会社 MM総研

【設 立】 1996年6月

【設立主旨】 株式会社MM総研は ICT 分野専門の市場調査コンサルティング会社です。日本における ICT 産業の健全な発展と市場拡大を支援することを目的に 1996 年に設立し、30 年近くにわたり経験と実績を重ねてきました。ICT 市場の現状と将来を的確に照らし出す調査に加え、新製品・新サービスを開発するためのコンサルティングも提供しています。

【所 在 地】 〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-3 芝公園フロントタワー

【連 絡 先】 TEL : 03-5777-0161 (代表)

【代 表 者】 代表取締役所長 兼 CEO 横田 英明

■ 報道関係お問い合わせ先

(株) MM総研 担当 : 池澤、上田

所在地 : 〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-3 芝公園フロントタワー

電話番号 : 03-5777-0161 ホームページ : www.m2ri.jp

スマートソリューション部門

次世代ネットワーク分野 最優秀賞



docomo business RINK®

つなごう、築きよ、守らせよ。
docomo Business

セキュリティ統合型NaaS
[docomo business RINK®]

インターネットやVPN、モバイルアクセスなど利用拠点に応じたネットワークとクラウド型のセキュリティ機能を一体提供。企業のDX推進やAI活用に適した次世代ネットワーク基盤として評価された。

セキュリティ分野 最優秀賞



CyIOC

NEC

次世代サイバーセキュリティサービス
[CyIOC(サイオック)]

「JPを守る」という理念のもとに立ち上げられたサイバーセキュリティサービスの新ブランド。NECが誇る高度なサイバーセキュリティ技術と最新AI技術を融合。品質と信頼性が評価された。

次世代モビリティ分野 最優秀賞



KDDI SmartDrone

「ドローンポートの社会基盤化」

モバイル通信とAIドローンを活用したドローンサービスを提供。各地にAIドローンを配備し、全国どこでも10分でかけつけるサービスを目指すなど、新たな社会基盤の実現に向けた取り組みが評価された。

データセンター分野 最優秀賞



NTT DATA

「グローバルデータセンター」

データセンター世界市場シェア第3位、国内第1位。光技術やGPUなどAI時代を支える先端技術を結集し、世界規模でITインフラを提供。AI・クラウド需要を捉える事業化力、技術力が評価された。

データセンター分野 最優秀賞



SoftBank

AI-RANソリューション[AITRAS]

基地局とAI処理を同一基盤で運用し、通信品質向上とAI活用を推進。エッジ分散配置によりデータセンター分散化を促し、リアルタイム性を活かして多様な産業用途を支える新たな基盤として評価された。

MM総研大賞2026

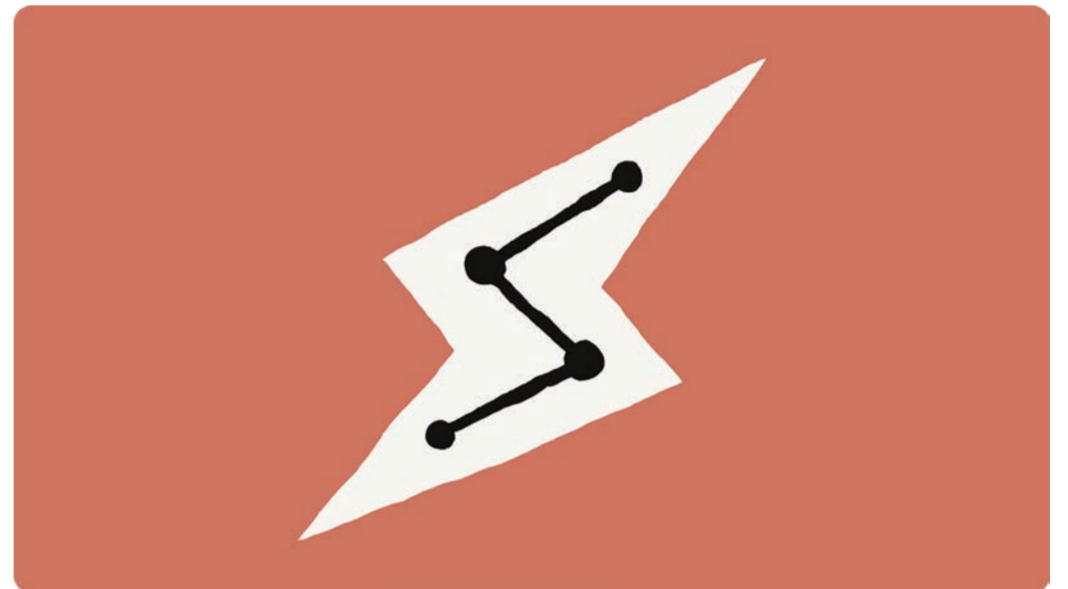


発表します。スマート社会を支える技術・サービス

MM総研はスマート社会を支えるICT(情報通信技術)分野の優れた技術やサービスを「MM総研大賞」として表彰しています。23回目となる「MM 総研大賞 2026」では13の技術とサービスを選びました。専門家による審査のほか、消費者へのアンケート、企業への取材などにより、認知度や使いやすさ、機能性、革新性、基盤技術としての広がりなどの観点から総合的に評価しています。

第23回 MM総研大賞

AIエージェント分野 最優秀賞 同時受賞



ANTHROPIC

[Claude Cowork / Claude Code]

Anthropic社による大規模言語モデル「Claude」から登場した、AIを活用したコーディングアシスタント「Claude Code」と、ナレッジワーク向けのエージェントAIシステム「Claude Cowork」。これらは理解能力と処理性能に優れ、自律的なタスク実行により知識労働分野での生成AI活用を前進させた。安全性重視の設計思想で導入の敷居を下げ、生成AIの実務利用を広げた点も評価された。

DX支援ソリューション分野 最優秀賞



東芝テック株式会社

[AI技術を活用した小売店舗向けスマートストアソリューション]

画像認識AIをはじめとする先端技術を活用し、防犯強化と省人化を実現するスマートストアソリューションを本格展開。顧客体験向上に加え、人手不足や店舗ロスなどの課題解決に貢献した点が評価された。

地域モビリティ分野 最優秀賞



MICHINOR 茨城交通 日立市

[「ひたちBRT」の自動運転バスを中心とした取り組み]

2025年2月から中型バス車両での自動運転「レベル4」の営業運行がスタート。国内最長距離で、鉄道の廃線跡を専用道として活用するなど、地域の移動課題解決に向けた積極的な取り組みが評価された。

スマートシティ分野 最優秀賞



IG Arena docomo

[IGアリーナ]

IOWNを実装した世界初のアリーナ。国内最大規模の通信環境により、リアルとデジタルを融合した新たな体験を提供。全国のアリーナへの横展開可能性や、地域経済活性化拠点としての将来性が評価された。

医療ICT分野 最優秀賞



Otsuka 大塚製薬

認知症の診療支援に用いる神経心理検査プログラム「ミレボ。」

国内初の保険適用を取得した認知症領域のプログラム医療機器*。iPad等のタブレットを用いて約3分で簡単に検査を実施可能で、客観的な検査結果を提供することで、認知症診療を支援する。*SaMD(Software as a Medical Device)

スマートデバイス分野 最優秀賞



Even Realities

[Even G2]

日常に自然に溶け込むテクノロジーを追求するブランド「Even Realities」。視界を妨げないスマートグラス体験を通じて、人と情報の関わり方を再定義している点が評価された。

審査委員特別賞



[海底マルチコア光ファイバ]

複数の光の通り道(コア)が存在する光ファイバー。長年の極低損失技術をもとに世界初の量産化に成功。海底ケーブルのサイズを変えず伝送容量を飛躍的に拡大させ、AI時代の膨大なデータ流通に貢献した。



話題賞

FCNT

[らくらくシリーズ・arrowsシリーズ]

スマホメーカーのFCNTが展開する「らくらくシリーズ」は、ガラケーから乗り換える高齢層やスマホ初心者から使いやすいと安心機能で長年親しまれている。「arrowsシリーズ」は堅牢性や耐久性に加え、バランスの取れた機能で幅広いユーザーに支持され、両シリーズの品質と独自性が評価された。



審査委員



委員長 村井 純
慶應義塾大学 特別特任教授



天野 肇
一般社団法人 モビリティイノベーションアライアンス 理事長



篠崎 彰彦
中央大学 国際情報学部 教授



石戸 奈々子
NPO法人 CANVAS 理事長



西田 宗千佳
フリージャーナリスト



横田 英明
MM総研 代表取締役所長 兼 CEO



関口 和一
MM総研 理事長

MM総研はデジタルトランスフォーメーション(DX)を促すICT(情報通信技術)の調査・コンサルティング会社です。スマートフォンやパソコン、クラウド、人工知能(AI)など最新の技術動向を調査し、デジタル変革の未来像を提言しています。社名の「MM」は「モバイル&モビリティ」を表し、自動運転やロボットなど産業分野のデジタル化にも注目しています。国内外の革新的な製品やサービスを表彰する「MM総研大賞」がICT市場の発展と拡大に寄与することを願っています。

